

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：43505

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K18614

研究課題名（和文）産後ケアセンターの利用率向上を目的とした「ナッジ」に関するランダム化社会実験

研究課題名（英文）The Randomized Social Experiment with "Nudge" to Improve the Utilization Rate of the Post-Natal Care Center

研究代表者

遠藤 清香（Endo, Sayaka）

山梨学院短期大学・その他部局等・教授（移行）

研究者番号：60710712

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ニーズが高いと考えられているにもかかわらず人々が選択しないため、必要なサービスが利用されていないという選択エラーに対して、利用率を向上させる政策的介入法を探索することを目的とした。選択エラーを引き起こしている要因を特定するための調査研究、特に、産後ケアセンターの利用を規定する要因について実証分析を行った。分析結果に基づき、産後ケアセンターの利用率向上を目的とした「ナッジ」に関するランダム化社会実験を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、実験の中止を余儀なくされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

産前産後の女性に対する地域ケアサービスの利用に関して、身近な相談相手である同居家族の有無が及ぼす影響は産前産後の女性の健康状態によって変動し、女性が健康である場合には同居家族の存在が地域ケアサービスの利用を促進し、健康でない場合には利用促進に影響しないことが分かった。利用率向上を目的の「ナッジ」にこれらの結果を活かすことができる。

研究成果の概要（英文）：People make decision errors not to utilize public services that they highly need. In this study, we explored ways of policy intervention to improve the utilization rate of such services. We made empirical analyses to identify factors leading to decision errors, in particular, factors that determine the utilization of the Post-Natal Care Center. With results from the empirical analyses, we planned the implementation of the randomized social experiments with "Nudge" to improve the utilization rate of the center. The experiments were, however, suspended due to the spread of infection of the Covid-19.

研究分野：子育て支援

キーワード：子育て支援 産前産後ケア 行動経済学 ランダム化比較社会実験

1. 研究開始当初の背景

近年、出産年齢の高齢化や核家族化が進行し産前産後ケアのニーズが高まっている。このニーズに応えるため、山梨県は産前産後ケアセンターを開設した。しかし、ニーズが高いと考えられているにもかかわらず、センターを利用する母親は予想より少ない。望ましい選択肢が存在しているにもかかわらず、その選択肢を選ばない選択エラーの事例は社会に数多く存在する。行動経済学では、人間の心理的特性によって生じる選択エラーを回避するため、選択の自由を維持しながら意思決定を誘導する「ナッジ (nudge)」という政策介入法を推奨している。産前産後ケアセンターの利用率の事例は、望ましい選択肢が存在しているにもかかわらず、その選択肢を選ばない選択エラーが生じている事例であるといえる。

2. 研究の目的

本研究では、どのような方法が産前産後ケアセンターの利用率を向上させるか、ランダム化比較社会実験を行って効果的なナッジを探索する。

3. 研究の方法

本研究では産前産後ケアセンターの利用率を向上させることを目的としたランダム化比較社会実験を行う。実施にあたり山梨県の産前産後ケアセンターの協力の同意を得た。

まず山梨県の産前産後ケアセンターの実態把握を行うために、センター職員・関係自治体担当者等を訪問し、インタビュー調査およびセンター利用に係る統計情報の収集を行った。

その後、インタビュー調査・統計情報の収集を通して明らかになったセンターの実態を踏まえて、ランダム化比較社会実験で導入するナッジの検討・選択を行うこととした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、社会実験の実施は中止を余儀なくされた。

4. 研究成果

【2018年度】

(1) 産前産後ケアセンターの利用率が低迷している理由を探索するために、県庁および山梨県産前産後ケアセンター協力し、山梨県内の市町村の乳幼児健康診査等において、妊産婦を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査では対象者の属性、経済・家庭状況、産前産後ケアセンターの認知などについて回答を求めた。2018年度中に回収は完了し、2019年度初めの産後ケア事業推進委員会にて単純集計を報告する予定である。また、アンケート調査結果を統計学的に解析し、産前産後ケアセンターの利用を阻害している要因を特定し学術論文として発表する予定である。

(2) 産前産後ケアセンターでインタビュー調査を行う中で、産後ケアを必要とする母親が、その必要度を過小評価する傾向があるのではないかと、という仮説が立てられた。この仮説を検定をするために、短期大学生を対象に、子育てで遭遇する場面の困難度を評価する質問紙実験を場面想定法を用いて行った。回答を因子分析した結果、困難度が高い場面ほど、母親は困難度を過小評価し援助要請を行わないという傾向が明らかになった。この結果は、山梨学院短期大学研究紀要に紀要論文として掲載された。

(3) 次年度行う予定であるランダム化社会実験において必要とされる統計量の統計学的

な性質を明らかにするために、モンテカルロ法を用いた統計量の分析を行った。分析結果は、山梨学院経営情報学論集に掲載された。

【2019年度】

(1) 昨年度、産前産後ケアセンターの利用率が低迷している理由を探索するために、県庁および山梨県産前産後ケアセンターと協力し、山梨県内の市町村の乳幼児健康診断等において妊産婦を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査結果を統計学的に解析し、産前産後ケアセンターの利用を阻害している要因を特定し、学術論文として発表した。分析結果は山梨学院大学経営学部経営論集、山梨学院短期大学研究紀要に掲載された。また、研究結果は経営行動研究学会、山梨県小児保健協会学術集会で発表された。

(2) 上記アンケートの自由記述回答について、援助要請の観点から、産前産後ケアセンターを利用しない理由をテキストマイニングの手法を用いて分析した。その結果を山梨学院大学生涯学習センター紀要に投稿した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 石川 勝彦, 遠藤 清香, 倉澤 一孝 | 4. 巻 40 |
| 2. 論文標題 身近な相談相手の存在が地域ケアサービスの利用に及ぼす影響 - 山梨県における産前産後ケアセンターの利用動向に関する探索的分析 - | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 山梨学院短期大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 57-65 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 石川 勝彦, 遠藤 清香, 倉澤 一孝 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 山梨県における産前産後ケアセンターの利用動向とその規定要因：アンケート調査の結果を用いた実証分析 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 山梨学院大学経営学部経営学論集 | 6. 最初と最後の頁 11-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小田巻 郁哉, 石川 勝彦, 遠藤 清香, 倉澤 一孝 | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 子育て支援サービスを利用しない理由の統計学的分析：自由記述のテキストマイニング | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 山梨学院生涯学習センター紀要 | 6. 最初と最後の頁 49-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Kurasawa Kazutaka | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 On the Choice of Estimator in Clustered Randomized Field Experiments : Monte Carlo Simulations | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 山梨学院大学経営情報学論集 | 6. 最初と最後の頁 25-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 遠藤清香、石川勝彦、倉澤一孝 | 4. 巻 39 |
| 2. 論文標題 出産・育児における援助要請の判断 場面想定法による実証分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 山梨学院短期大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 23-34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 遠藤清香、倉澤一孝、石川勝彦 |
| 2. 発表標題 産前産後ケア事業所の利用動向とその規定要因～なぜ利用は難しいのか |
| 3. 学会等名 第37回 山梨県小児保健協会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 遠藤清香、倉澤一孝、石川勝彦 |
| 2. 発表標題 産前産後ケアセンターの利用動向 - 規定要因の統計学的分析 - |
| 3. 学会等名 山梨学院学術報告会2019 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 倉澤一孝 |
| 2. 発表標題 産後ケアセンターの利用率向上を目的とした「ナッジ」に関するランダム化社会実験 |
| 3. 学会等名 経営行動研究学会第29回全国大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-----------|---|---|----|
| 研究 分担者 | 倉澤 一孝 (Kurasawa Kazutaka) (10781255) | 山梨学院大学・経営学部・准教授 (33402) | |
| 研究 分担者 | 石川 勝彦 (Ishikawa Katsuhiko) (30714779) | 山梨学院大学・学習・教育開発センター・特任准教授 (33402) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|